

令和4年度

第3回海老名市総合教育会議

海老名市総合教育会議 会議録  
(令和4年度 第3回)

- 1 日 付 令和5年2月25日(土)
- 2 場 所 えびなこどもセンター 201会議室
- 3 出席者 市長 内野 優 教育長 伊藤 文康  
教育委員 平井 照江 教育委員 酒井 道子  
教育委員 濱田 望 教育委員 武井 哲也
- 4 事務局 理事(教育担当) 小宮 洋子 教育部長 中込 明宏  
教育部専任参事 萩原 明美 教育部参事兼教育総務課長 西海 幸弘  
教育部参事兼就学支援課長兼指導主事 山田 圭 教育部参事兼教育支援課長兼指導主事 坂野 千幸  
教育部参事兼学び支援課長 山田 敦司
- 5 開会時刻 午前10時00分
- 6 協議事項 (1) 教育大綱について  
(2) 令和5年度予算における重点事業等について  
(3) 学校施設再整備について
- 7 発 表 学校紹介(中新田小学校児童発表)
- 8 閉会時刻 午前12時00分

○**専任参事** 皆さん、おはようございます。ただいまより令和4年度第3回海老名市総合教育会議を開会いたします。

私は、教育部の萩原と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日は、お手元の次第より進行させていただきます。

本日の会議は、議題が3件、その後、休憩を挟んで次第4として、児童による学校の発表となります。海老名市ユーチューブチャンネルにてライブ配信をしておりますので、ご了承願ひます。

それでは初めに、市長と教育長からご挨拶申し上げます。

○**内野市長** おはようございます。本日の総合教育会議にご出席を賜り、心から感謝申し上げます。

27年度からスタートした総合教育会議も8年目を迎えております。令和4年度はコロナの関係がありまして3回目になっておりますけれども、毎年4回以上行っておりまして、こういった形を取っているのは県下でも海老名市ぐらいだと言われております。そういった面では、やはり身近に感じていただくことを主眼として、皆さんからのご意見を賜る機会をつくりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

本日は、来年度から始まります教育大綱について、令和5年度教育予算における重点事業等について等々、3件ございますので、その説明を事務局から受けながら、教育委員の意見を聞いてやっていきたいと思っています。様々課題はありますし、短い時間ではございますが、どうかよろしくお願ひしたいと思ひます。

○**専任参事** 続いて、教育長、お願ひいたします。

○**伊藤教育長** おはようございます。総合教育会議に集まっていたいただいて、どうもありがとうございます。本来は教育について市長と教育委員がみんな話し合う公開の場で、皆さんからご意見やご質問を受けることは本来は含まれていないのですが、市長から皆さんのご意見を聞きたいということで、そういう場にもなっています。

海老名市の場合は、総合教育会議という制度になって、私自身がこの職に就いて、市長はとても気にしてくれているという言葉が変ですが、教育行政に関わると急にこどもセンターに来てしまうのですよ。うちの職員がみんなびっくりしてしまっていて、何事が起こったのかという違っていて、伊藤さん、こういうのがあって、こうしたいほうがいいと私も思ひますが、どうでしょうか。以前からずっと意思疎通してきたので、市行政と教育行政とのやり取りはある程度円滑に進んでいたのですが、制度の中ではこういう公開の場で教育をどうすべきか、海老名市の教育をどう進めるかを話し合う場が設定されまして、積極的に総合教

育会議が開かれていますので、こういう中で皆さんにも聞いていただいて、ご意見等ありましたらお寄せいただいて、またみんなで、海老名市全体でよりよい教育行政を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○専任参事 それでは、次第3の協議事項に入りたいと思ひます。

これからの協議事項の進行につきましては、内野市長に議長をお願ひしたいと思ひます。内野市長、よろしくお願ひいたします。

○内野市長 それでは、私が議長を務めさせていただきます。

協議事項の(1)教育大綱についてを議題といたします。

事務局から説明をお願ひいたします。

○教育部長 それでは、教育大綱についてご説明をさせていただきたいと思ひます。お手元に資料を配付していますが、右手のスクリーンにも投影させていただいておりますので、傍聴の方はそちらもご覧いただきたいと思ひます。

では、始めさせていただきます。本日説明させていただく内容ですが、これまでの経過、次期海老名市教育大綱（案）と今後のスケジュールです。

まず初めに、これまでの経過についてご説明したいと思ひます。今回の教育大綱の見直しにつきましては、令和4年7月16日の第1回総合教育会議からスタートいたしまして、各種委員会等の委員の皆様や学校長との話し合い等、ご意見をいただき、教育委員により教育課題研究会での協議を行ってまいりました。本日は、様々いただいたご意見等を踏まえまして、新教育大綱（案）をご用意しましたので、その内容についてご議論いただき、ご承認いただければと思っております。また、ご承認いただいた後には、行政内部の手続を経て、市民へのパブリックコメントを実施していきたいと考えています。

参考までに各種委員会等からの意見の概要をお示しさせていただきます。まず、社会教育委員からは大きく6つのご意見をいただいております。主な意見として、高校生・大学生が参画できる場・仕組みづくりの構築、もう1つが広い世代の交流を図ることといったものがありました。

えびなっ子しあわせ懇談会委員からは、大きく5つのご意見をいただいております。主なご意見として、現大綱の柱の1つともなっています「えびなっ子しあわせプランの推進」を重点的に進めること、インクルーシブ教育の推進を求めるといったものがありました。

教育委員からは、大きく4つのご意見をいただきました。主な意見としましては、まず1つ目としては「『誰ひとり取り残さない』教育の推進」と「新たな学校の枠組みづくりの推進」「積極的な学校再編計画の推進」を追加することと、教育施策の5本の柱は全て関わり

合っていることが分かるようにするといったものがありました。

それでは、次期海老名市教育大綱（案）についてご説明します。本日お示しいただく次期教育大綱（案）です。配付資料をご覧くださいと思います。スクリーンは、お手持ちの資料でいうと左側の部分を投影させていただきました。こちらのほうでご説明いたします。まず「しあわせをはぐくむ教育」のまち海老名を目標として、一番下に書いていますが、家庭・学校・地域・行政の力を結集しまして、21世紀の教育理念であるひびきあう教育の理念の下、子どもたちひとりひとりの家庭・学校・地域のしあわせをめざしますとする基本的な考え方に変更はなく、継続することとしています。

教育施策の柱ですが、現行の大綱数から2つ増やしまして、5つとしました。その5つの柱のうち3つの柱「えびなっ子しあわせプラン」の推進、子どもと大人がともに学ぶ機会の充実、新たな学校施設への取組と子育て環境の充実につきましては、基本的には前回は継承したものとしまして、教育支援体制のさらなる充実と学校教育以外の場での学びの保障、あるいは若者が活躍する機会の創出、教育環境の整備の必要性といった社会変化に対応した表現とか、対象事業内容の修正を行っております。

残りの2つの柱ですが、今回の見直しで新たに追加したものです。1つは、新たな学校の枠組みづくりの推進としまして、こちらにつきましては、既存の学校枠組みにおける諸課題とか、あるいは学校の経営的視点の構築、学校のDX化の促進、幼児教育との連携、新たな部活動の在り方の検討など、現在及び将来において対応する必要性を踏まえ、柱として追加しています。

もう1つは、包摂性の高い教育的・社会的支援の推進としまして、これは学校の包摂性、多様性が重要となっている中、1人1人の学びの保障としての様々な教育支援体制の充実を図る必要があることから、柱として追加させていただいております。

この5つの柱は、この中にも書いていますが、「誰ひとり取り残さない教育」を目指し、お互いが補完し合うものとしています。また、教育施策の柱にひもづく事業を現大綱では14事業としていましたが、新大綱案では21事業としまして、これからの海老名市の教育の進むべき方向性をより具体化、明確化したものとしています。

お手元の資料の右側の面につきましては、計画期間とか計画の位置づけ、裏面は、先ほど申し上げた各事業の詳細となっています。それと、現行の大綱と比較できるよう、そちらも添付させていただきました。こちらにつきましては後ほどご高覧いただきたいと思います。

最後に、今後のスケジュールです。冒頭でもご説明しましたが、本日の総合教育会議でご議論いただき、ご承認いただきました内容につきましては、市民の皆様にご意見をいただく

パブリックコメントを3月3日から1か月間実施してまいります。その結果を踏まえて最終案を作成しまして、4月に予定しています令和5年第1回総合教育会議におきまして新教育大綱最終案をご決定いただき、行政内部での手続を経て公表していくこととしています。

以上で説明を終わらせていただきます。

○内野市長 ただいま教育大綱の説明がございました。各教育委員から何かございますか。

○武井委員 今回新たに2つの新しい取組が入りました。その中で、もともとGIGAスクールが始まって以降、1人1台端末が進んできて、その中で、デジタル化とか、ICTとか、端末を使って簡単にできるデジタル作業が大分増えてきた中で、新たな学校の枠組みづくりの推進の中に学校のDX化の促進というところですね。随分画期的な攻めたデジタル構想になってきたと思っています。そんな中で、例えばこの4項目の中だとDX化のウエイトがかなり重たいとされていて、そういったところをどのように進めていけるのかなというところを1つ質問したいと思います。よろしくお願いします。

○教育部長 今、市でも、そういった課ができるような体制が作られております。当然学校でもICT教育とか、いろいろなことが進められていますけれども、例えば紙を少なくしていくとか、そういう工夫がもっとできるのではないかとということもあります。子どもたちは、1人1台端末を持っていますので、そういうものをもっと活用していった、DXに対応できるような工夫ができたらいいなという思いの中で、これを入れさせていただいているところでございます。

○伊藤教育長 学校DX化ということなのですが、子どもたちは今1人1台端末を持っています、勉強に使う、例えば家庭での学習で使うのですね。それ自体もDXということで、ある意味で言うと、今、自治体のDXが一番進んでいるのは学校だと言われているのです。要するに1人1台、道具は足りている。ただ、DXが進むためには、学習用のアイテムとして使うものが子どもたちの生活の中にもアイテムとして使う。例えば先生方が今まで紙で子どもたちに配っていたものは、子どもたち自身が家の中にも届く。その先には教科書のデジタル化もありますが、多分、この先の子供たちは学校に通うときに、ランドセルでなくて、タブレット一枚をポケットに、こういうバッグに入れて、学校とのやり取りをするような時代が私は来ると思っているのですね。

もう1点は、今も学校の中ではかなり紙の書類があるのです。学校は、校務支援システムというシステムが入っていてある程度デジタルですが、学校内のシステムとしてデジタル化を進めることによって教職員の働き方改革というか、今は紙ですがもう少し楽にしたい。

もちろん個人情報の保護とか、様々なシステム上の改良は必要ですが、子どもたちの生活で1人1台端末を活用し、学校のそれぞれの事務の上でもDX化ということ新たな枠組みとして挑戦し取り組んでいきたいということです。

○武井委員 ありがとうございます。僕もすごい期待をしていて、簡単なプリント配布とか紙を減らす以外にも、教職員の仕事の削減とか、個別の子どもたちの教育とか、端末の教育、例えばその端末を見ながら自分で家でも勉強できるといった時間の配分とか、前回からDXが入ったことで少し期待をして今回は読んでしまいました。ぜひともうまく活用できるようにお願いいたします。

○酒井委員 先ほどのDXの話で言うと、私はぜひ科目の中でも活用してほしいなと思います。美術とか、技術とか、まだ旧態依然とした授業をやっている先生方もいらっしゃると思うので、せっかくある1人1台端末を活用してほしいなと思います。

今回から誰ひとり取り残さない教育を真ん中に据えて書いてありますけれども、本当にこれがこれからの子どもたちの教育でとても大切なことだなどしみじみいつも感じております。例えば芸術活動とか、スポーツをするとか、いろいろな活動をするのに、家庭の力だけだと、大きな格差というのが問題になってきていると思います。そこを完全に埋めることは難しいですが、その間を少しでも埋められるのが市、行政の力だと思いますので、ぜひ子どもたちに芸術や科学など、教育課程プラスアルファという部分にもぜひ触れられるような機会をつくっていただければうれしいなと思います。

1点、私の意見としては、右上、包摂性の高い教育的・社会的支援の推進という文言になっているのですが、この包摂性という単語が少し難しいのではないかなと思います。理念としてつくった後に、一番下に書いてあるように、やはり家庭と学校、地域、行政の力を結集しましょうというふうに皆さんに見ていただくことになると思うのですよ。今つくり上げた教育施策の5つの柱が市民の皆様と学校と地域と行政の方々1人1人にしみ込んでいくためにも、もう少し分かりやすい言葉を選べないかなと思いました。例えば誰もが教育的・社会的支援を受けられる仕組みづくりなどではどうかと思いました。

○内野市長 私もそう思います。これは難しいよね。初めて聞く。

○伊藤教育長 あえて包摂性という言葉を入れたのはどういうことかという、これからはもっともっと包摂性という言葉がクローズアップされると私自身は思っています。実を言うと、多様性という言葉が最初に出たのですが、多様性は人々の多様性を認めるという言葉なんです、包摂性はそれを取り込んで、全ての人たちに学びを保障したり、その機会を保障するという言葉です。これ自体はインクルージョンという英語なのですが、例えば社会

的支援だと国のほうは、包摂性、ソーシャルインクルージョンという理念がかなり進んでいるのです。だから、海老名は相当先を考えているのだなということを出したくて、あえてこの言葉を出したところがあるのです。教育的な、例えば支援教育とか、社会的なことでスクールライフサポート、経済的支援とか、学習支援ではライフ・スタディサポートとか、社会も、学校も、全ての子どもたちの多様性に対応した包摂的な社会をつくるということなので、難しい言葉ですが、これから絶対にクローズアップされる。今は多様性ばかりがクローズアップされていますが、今度はその多様性を体現する包摂性という言葉が必要だと考えました。

**○内野市長** 二重にすればいいのですよ。分かりやすい文章にして、括弧書きにして（包摂性の高い教育）とすれば分かりやすいですよ。このままぱっと出すと初めて出てきた言葉で、分かりづらから、参考資料としてつけるとか、いろいろやり方があるので、それについては教育委員会で今後どうレイアウトするか、考えていただきたいと思います。

**○濱田委員** 今2人の委員からのご意見にありましたとおり、まだ案の段階ですので、我々の意見もお話しさせていただければと思いますが、前回の3本の柱から、今回5つの柱になったということで、大綱自体が安定感のある将来を見据えた大綱になって、柱も非常に安定した柱になっているのではないかなと思いますし、絵、表現の形も非常に分かりやすく、バランスが取れているなどと思います。言葉の中にいろいろな含まれた意味がありますので、その次のページ、あるいは右側のページに書かれている施策にぶら下がるいろいろな事業概要でももう少し深掘りした議論をこれからもして、最終的にまとめていくのかなと思いました。本日のところはこの5つの柱ということで理解いたしましたので、よろしくお願ひしたいと思います。これはもう意見で結構です。

**○平井委員** 私は、実は現行の3本柱がすっきりしていて、いいなと思っていました。その中に新しい取組を入れていけばいいのではないかなと思いました。それは皆さんが読んだときにどれだけこの中のポイントをつかんでくださるかというところが大きいかなと思ったからです。でも、今回5本の柱ということなので、これはまた精査されていて、いいかなと思います。この中で特に私が今回、海老名市として特色を出したなと思うところはインクルーシブ教育なのですね。この推進と不登校支援体制の充実は今後取り組まなければいけない課題だろうなと思っています。その中で、インクルーシブ教育の推進は良いと思います。不登校支援体制の充実がインクルーシブ教育の中でどれだけ図られていくのだろうか。これから4年間の取組となるのですが、今、海老名の現状の中で、不登校の子どもたちの数と子どもたちの状況を考えたときに、これから現状把握をして、海老名としてどのように取り



組んでいかなければいけないかとなったときに、果たしてこの大綱が4年間の中で充実のところまで結びつくだろうかという思いが私はしています。充実でもいいし、もちろん4年間の中でできれば十分だと思いますが、私は両方とも推進とし、じっくり不登校対策に関わって、海老名としての取り組む形をつくっていく必要があるのではないかなと思います。

**○内野市長** 今、充実を推進にしたほうがいいという意見だと思いますが、言葉の問題で、不登校支援の体制については議会等でもいろいろ出ている、学校は学校で、教育委員会ではえびり一ぶの事業を行っている。民間の方も多く参加していて、組織的にネットワークをつくっていきましょうよということで答弁がいろいろありますが、そういったことをやりながら、一歩何かできればなとも思います。ただ、それが全てできるかというと、百何十人もいる不登校の子どもたちが全員学校に来られれば一番いいわけですが、そういったことが100%可能なのかというと、私は不可能だと思っています。教育委員会の中で1つ1つ寄り添って、不登校をなくしていくという気持ちが必要で、学校の体制づくりが必要だと思います。

私が市長として思うことは、学校再編と学校の経営の在り方を入れていただいたのがうれしいですね。海老名は今すごく発展していて良いですが、今日は北部の方が多いと思いますが、南部の伝統ある有馬小学校は学年1クラスがやっとなのです。2クラスできるか、できないか、微妙なのです。できないと1クラスになってしまう学年もある。一番伝統ある有馬小学校がそうなのです。ところが、社家、門沢橋は徐々に増えているわけです。北部はほとんど増えていて、1つだけ減っているのは東柏ケ谷小学校ですね。東柏ケ谷小学校は基本的に三角地帯の部分で、ある程度学区の柔軟な決定をしないと学校の児童生徒は減ってしまっています。学区の在り方などを教育委員会と学校と保護者とで話し合ってもらわないととても難しいです。

統廃合にOBが入ると、学校を統廃合するだけで、何で自分の卒業した学校がなくなるのだという声があるのです。そういった問題をクリアしないといけない。海老名の今後の学校、公共施設の再配置計画で、再配置というのは、いろいろな今の施設をこのまま2060年まで維持するには、修繕などいろいろなことを行って2,200億円かかると言われているのですよ。それを圧縮する。今RCの建物の耐用年数は60年と算出しているのですが、60年を80年に持っていくには、1,500億円必要だと言われています。修繕など、いろいろなことを行うのですが、毎年、保守、修繕に20億円ぐらいかかると言われています。これを学校として残すほうがいいのか、新しく造るほうがいいのか、今後の議論は、財政力がいいときに決めないと、人口が減ったときに始めようとしても、なかなか始まりません。いいとき

に、人口が増えているときに話し合いを行って、将来こういう方向でいくのだという方針をしっかりと教育委員会で固めていただければ、行政として、市長部局としての部分を行っていきたいと思っています。

よって、この一、二年がちょうど正念場になっていると思います。学校がなくなるということは寂しいことです。特に小学校は、統廃合をして遠くなると、保護者が嫌がりますが、スクールバスで送迎すれば安心なのです。地元で降ろしてもらい、地域で集まってもらって、スクールバスで小学校へ行く、帰りは送る。安全の部分がありますから、そういった体制を考えないといけない。もう地方はそれで始まっています。神奈川県下では箱根町がそうです。箱根も学校の統廃合をしています。近くでは清川村は小学校2校、中学校2校あるらしいです。ところが、全部合わせて250人程度しかいない。小中一貫校を1校つくって、そこで全部完結するようにしようという計画を今作っています。どう今後進むかという部分もありますが、海老名もそういう状況が始まりますので、今後早めに教育委員会で結論を出していただくことをお願いしておきたいなと思います。

お金なくして運営はできませんからこれは本当に重要なことなのです。先ほどのICTのタブレットについても、全生徒にとっても、今回のコロナで相当なお金を国は出して市町村にお金は下りました。1つだけ面白いのは、学校の先生の分はないのですよ。だから、学校の先生の分は行政判断。ところが、1回これをやって、こういった機器というものはある程度、5年に一遍更新しなければいけない。5年に一遍のときに5億円くらい来たのですが、その5億円を一斉に替えられるかという問題があるのですよ。壊れたりするのはいいのですが、一斉に機器が新しくなる。前にパソコンで1回やっていたら、19校あって、順番に切り替えていくと、新しくするのに5年か6年ぐらいかかるのですよ。そうすると、入ったときには古いものになってしまう。そういった部分でいくと、ICTも相当考えないといけないということで、市としてもICTの基金、貯金をつくってあるのです。だから、市単独事業でどんどんできるような形です。3年間なら3年間で切り替えると遅れてしまうから、中学校は全部一斉にやっていく、小学校は2年がかりでやっていくとか、そういった短期間でやらないと、遅れていくということでやっていますので、どうか教育委員会の議論として、予算的な問題を少し加味しながら今後検討をお願いしたいなと思っていますので、よろしくをお願いします。

皆さんのほうでこの教育大綱について、ここだけは聞きたいということはありませんか。  
○傍聴人 第一印象は、優れた教育大綱で、すばらしいなと思うのですが、教育で一番重要なのは、やはり優れた先生方を集めるというか、多くすることで教育は充実していくと思う

のですが、今、新聞をにぎわせているのは、学校教諭、先生たちの環境がブラックだということですね。一番最初に出てきました社会教育委員の意見でも教職員の就業環境の改善が課題ということなのですが、これへの取組は教育委員会になるのか、少し分からないのですが、具体的にどのようになされているのか。その取組も教育大綱の一つに私は入れるべきではないのかなと思います。

以上です。ありがとうございます。

**○就学支援課長** 就学支援課長の山田と申します。教職員の勤怠管理を担当しております。先ほど教育長からの話にもあったのですが、就業環境の中では、給食費のD X化、職務のD X化を徐々に進めています。例えば、以前は紙で配布していたようなチラシをメールサービス等で配信するような形を取っています。コロナが始まって、健康観察機能も以前はずっと紙でやり取りしていたのですが、それを入力することで、先生たちが一覧で見ることができる。朝、お便り帳が来て、それで連絡してということが減っていますので、それについてはかなり労働時間としては短縮できたかなと思っています。少しずつですが、子どもたちに対する教育効果と先生たちの働き方改革を両立していけるような形で進めていきたいなと思っています。

**○内野市長** 今の話、提案、私はいいと思っているのですよ。どこかに入れればどうですか。

**○伊藤教育長** それはもうD X化とか。

**○内野市長** 新たな学校の枠組みづくりの中に、学校のD X化の促進とともにそういった部分を入れていったらと思います。学校の教職員の環境及びそういったものの改善とかを入れていけばクリアできるから、いいかな。

**○教育部長** はい。

**○内野市長** 入れましょうよ。私もそう思います。優秀な先生を採用することは必要なのですが、頭でっかちばかりになると駄目なのです。あとは生徒のために一生懸命放課後もやっっていく先生が必要だと思うのですね。私のときはそうでした。

**○伊藤教育長** 今、教職員の働き方改革ということで、それ自身は多方面で進んでいます。でも、国の枠組み上、教職員定数ということで、先生たちの数はもともと少ないので、定数を増やさないと、仕事量が変わらないから、そこをまず改善しなければいけない。そういう意味で言うと、海老名市は、市長の理解の下に来年度も市費で、市がお金を出した教職員が16名、先生たちの支援のために入ることになります。それから、校務支援システムが入って、昔は通知表などはみんな手書きで、私は学期末になると、もう寝ないで通知表を書いていたのですが、今はパソコンで入力できます。その入力したものは、実は先生たちが毎年記録

して要録というものをつくるのです。そこにデータを保存していく。したがって、ありとあらゆる意味でそういうシステムを使うことができている。

それから、ここに部活動の在り方の検討とあります。これは今、学校側、校長先生たちと議論しているのですが、県のデータで言うと中学校の残業時間がかなり多いのですね。それは何かというと、部活動に関わった時間の分です。例えば6時間目の授業が終わった後に事務や教材研究ができればいいのですが、夕方まで部活動をして、その後に授業の準備に入るということで、この部分の部活動の在り方などは今後検討します。

だから、全体としては、そういう教職員の働き方に進んでいっているということでございます。あとは、学校の魅力として、先生たちは子どもたちと関わるのが喜びややりがいであると思います。それをうまく若い人たちに理解していただいて、そういうことで教職に就く人たちを増やすのは国策として、また、海老名市は海老名市として進めていく必要があると思います。

**○傍聴人** 海老名市内でNPO法人グランメールという障がい児の通所事業をさせていたでているとともに、不登校支援等をさせていただいております。その中で1つお願いというか、私どもの事業として、どうしても午後に生徒さんたちとかを預かることが多いのですが、学校訪問、学校の先生たちとの連携のときに、情報提供等々、電話でやり取り、連絡を取ることが多いのですね。ですが、今、学校は5時になると電話は使えませんという形で、先生とのやり取りができません。私ども生徒さんたちが帰るは6時半なのです。それから学校と連絡を取ろうと思ってもできない。メールはいかがですかと。今DXの話がございました。メールでやり取りをしたいですとお話ししたところ、いや、学校は一介の事業所とのメールのやり取りは今しておりませんというお話がございます。福祉と教育との連携を言われている中で、やり取りのしやすさというところも考えていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

**○教育部理事** いつも子どもたちがお世話になり、ありがとうございます。教育担当理事の小宮と申します。

昨年度からグランメールを含め、市内の子どもたちがお世話になっている不登校支援の団体、11団体の方たちにこちらに来ていただいて、市の教育委員会と不登校支援団体連絡協議会という協議会を持たせていただいております。市長のお計らいで補助金も出させていただいているのですが、実際に私もその会議に出ると、今言っていたようなことも含めて、出席扱いにするかどうかとか、もう本当に様々な点でいろいろな課題が見えてきている状況です。今いただいたご意見も含めて、またそういう協議会を基に市としても、1

つ1つの学校の考えというよりは、全体としての方針をいろいろな面で整理していきたいと考えております。

○内野市長 1つの課題として踏まえていますので、これから改善に向かうと思います。よろしく申し上げます。

○傍聴人 こんにちは。海老名市内に住んでいます2児の母です。いつも子どもたちのことを考えて、たくさん支援してくださって、どうもありがとうございます。コロナが始まりましてもう4年目に入ったのですが、この3年間、学校でも大変な思いをされてきたかと思えます。ありがとうございました。

さっき不登校の支援の話がありましたように、コロナ禍になりまして、不登校が過去最多になってしまったということだとか、子どもと女性の自殺が過去最多。今までは男性が多かったのということで、すごく深刻な問題だなと思っていて、その不登校が東柏ケ谷小学校に限っては減っていることを聞いて私も驚いたのですが、東柏ケ谷小学校でお仕事されている方とお話しする機会がありまして、マスクのこととか、どちらかという穏やかな考え方といいますか、自由に外している子に対して強制的につけさせるようなことはしてなくて、本当にお互いに尊重し合っていてやれている環境があるみたいなのですね。うちの娘が通っている小学校とは大分違うのだなという印象がありまして、マスク警察というようなものも経験してきた者なのですが、黙食とかも海老名市教育委員会はそもそも最初から求めていると思うので、学校によって結構差が出てしまっているというか、うまく伝わっていないのかなと思う現状が多々見受けられるのです。

感染対策もまだゴールになっていないということで、先生方も心苦しい中、致し方なくされているのはお話を聞いている中ですごく分かっているのですが、つらい思いをしているのは子どもたちで、窓を開けなければいけないというのをまだやっているではないですか。何センチか開けておかないと、もし感染が出てしまったときに、どう責任を取ったらいいのかという実際の先生の声も聞いているので、子どもも大変だけれども、先生も大変。実際にそれで登校拒否になってしまっているお友達。今まで通っていたのですが、つい最近登校拒否を決めたお友達がいるということも、もうコロナが終わるであろう目前に来て始まっていることがちょっと悲しいなと思っています。

私、全国有志子どもを思う会のお手伝いをさせていただいて、外したい方と外したくない方がいると思うので、各家庭によって考えは様々なので、どちらにも寄り添った形で、外したくない方というのは感染を恐れていらっしゃるの、厚生労働省も、文部科学省も推奨しているサーキュレーターを導入だとか、県としてそういう提案ができるよということを市

町村に進めてもらえないかという話だとか、朝の会などの子どもたちに分かるような伝え方で、マスクの着脱は個人の判断ですよということを繰り返し周知することが大切なのではないかということで、県議さんに協力していただいて、陳情書を先日出してきたばかりなのですが、その子どもを思う会の取組としてやっているこういったポスターがあります。このポスターは厚生労働省に全ての文言、一言一句問題ないものか、確認をした上で制作したもののなのですが、マスクをつけても外しても間違いではありませんとか、登下校、外の活動、息苦しいときなど外してもいいですよということが分かりやすく書いてあるのですね。あとは、学校給食法だとか、教育基本法において食育が大変大事なことだったのですが、それがこの3年間、全くできないで来たということは、この子どもたちがそういった教育を受ける機会を失ってきたということだったので、感染対策も大切なのですが、どちらもバランスを取ってやってほしいなというのは正直あるのですね。これから取り戻していくためには、子どもたちの心を、不安ではなくて、安心感の下、学校給食法でも安心して食事が取れるという文言が入っているのですが、そのとおりなのです。ここに、海老名市も言っているとおり、黙食はしなくていいよとか、給食は楽しく食べようねとか、感謝の気持ち、ありがとうという気持ちを込めて食べようとか、いただきます、ごちそうさま、この言葉すら言えていないところもあるのですね。こういったものを学校に掲示して、子どもたちに視覚的に情報として伝えていこうということを取組としてやっているのですが、実際にこのポスターを掲示することによって、不登校だった子が戻ってくるということが実例として起きています。もしよかったらこういったこともご検討していただけるとうれしいなと思ひまして、今日は子どもを連れて、頑張ってきてみました。

長くなりまして、すみません。どうもありがとうございます。

○内野市長 何かコメントありますか。

○就学支援課長 ご意見、ありがとうございます。コロナが始まって3年になって、この間、学校も、子どもたちも、いろいろ大変な思いをしてやってきました。海老名市としては、まず原則として、マスクの着脱を強制するものではないというスタンスを取っています。それから、その時々々の感染状況、あるいは国の指導、県の指導を受けて、海老名市のガイドラインを定めて、子どもたちの教育に当たってきたところです。ここに来て、国が卒業式に向けた通知を出して、海老名市としても22日付で保護者の皆様には、卒業式についてはマスクなしとするということで通知させていただきました。それから、4月1日以降の学校教育活動については、今ガイドラインの改定に向けて就学支援課で検討を進めているところです。教育長も議会で答弁していますが、これまでマスクの着用を促す指導をしてきたという経

緯もあって、子どもたちの心に寄り添って、ここですぐ外しなさいと言うのも、子どもたちのこれまでの思いに反するようなものだと思いますので、できるだけ子どもたちにも丁寧に説明をしながら、これからどんな学校生活を送っていくのかというのは、教職員も含めて指導していきながら進めてまいりたいと思います。ご意見、ありがとうございます。

チラシ等については、ご依頼いただければこちらで検討させていただきますので、よろしくをお願いします。

**○内野市長** 今、言われたお話は教育委員会が1つのガイドラインをつくる、それを19校の校長先生の頭に入れる、そこで差が出るのですよ。守りに入る校長と、オープンにする校長。オープンにする校長は無責任かという、そうではなくて、守りに入るのが一番楽なのですよ。そこをどうやって調整していくか。感染者数が多かったときと、少なくなったときとのメリハリがないのですよ。その部分は私も感じています。これはコロナだけでなく、一般の、通常の学校運営で、私、いつも頭にきています。19校の先生はどうして教育委員会の指示に従わないのか。歩道を造ろうと言って、教育委員会がオーケーする。学校に行ったら、先生は無頓着、保護者は猛反対、それで歩道ができなかったところがあるのですよ。そうしたら、数年後に今度は歩道を造ってくれと。校長も反対していただではないかと言ったら、体制が変わったから変わったという話でした。学校は19校あって、先生の個性というのは必要だと思います。ですが、校長が全権を持っているのではなくて、教育委員会も一緒になってやっているわけで、教育長は本当に背負ってやっているのですよ。これはもう確かなのです。信頼関係があるから。校長以下、学校の先生たちがその学校に対して、19校それぞれにいろいろな特性がありますし、子どもたちも環境が違えば、様々あるので、そこをどうやって指導していくか。これが大きな特性ある学校づくりだと私は思っているのです。教育委員会もそういった形で苦労されますし、ここにも学校から来ていらっしゃる先生が数人いるので、学校に戻ったらそういう形にはならないと思いますので、大丈夫だと思います。

教育委員会に来て一生懸命やっている先生が学校に行くと、うまくいくのですよ。よろしくをお願いします。

**○伊藤教育長** そうは言いますがけれども、海老名市教育委員会と19校は本当によく連携を取ってやっています。ただ、大変申し訳ないですがけれども、それが保護者全員に浸透しているかとなると、そうはいかない。マスクの件についても、保護者の方々には、この意見の方から、ずっと極端なこの意見の方まで、全部が学校に集まる。そうすると、学校の先生たちはどこかで照準を合わせます。一番共通項が高いところに合わせると、照準の外の人たちは

不満なのです。それは、保護者の方々もみんなで集まって話し合わないと、学校自体どうにもならないこともありますので、海老名市教育委員会と小中学校はこれまでも連携してやってきましたし、これからも連携してやっていきます。なおかつ、地域の方とか保護者の方々も一緒にそこに入って議論することがこれからの問題解決には一番いいことです。子どもたちのためにみんなで集まるということは続けてまいりたいと思いますので、またご提案等あったら、どんどん寄せていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

**○傍聴人** 有鹿小学校のほうから来ました。私自身、教育から退いて、もう十七、八年たつのですが、教育施策の5つの柱で地域のしあわせのためにということがあるのですが、その地域の根幹をなしているものは、やはり自治会とか、あるいはPTAだと思うのです。小耳に挟んだところによると、ある学校では、PTAに入るか、入らないかについては、それぞれ自主的な判断に任せるといような話を聞いたのです。私自身、現役でいた頃に、PTAの役割とは一体何かなということをよく考えていたのですが、会報とかを読ませていただくと、学校の行事で、子どものための広報みたいになっているので、もうちょっと考えて、PTA自身が発信すべき内容の広報ではないかなと思いつつ、広報の話になってしまうとおかしいのですが、PTA自体は学校にとって必要な存在ではないかなと思うのですが、ある学校によると、もうPTAには、入っても、入らなくてもいいよということがあったのです。ですから、教育委員会としてPTAの存在は、これから地域の力を活用していくといったときに、マンションなんかは自治会でさえも入る人が少なくなっています。PTAも入らない人が自由になってしまった。そのときに地域の力を活用するとは、一体どうやってするのか。突然聞いてみてもいいかなと思って聞いてしまったのですが、教育委員会自身、どう捉えていくのかなということでございます。

**○伊藤教育長** PTAのことで今ご質問いただきました。何でもそうなのですが、組織があって、組織の本来の狙いはここにあったのですが、組織を運営するための様々な役割分担などについて、私はできませんという方がかなり増えているということで話し合っている。ただ、私はいいい議論だなと思っています。保護者とか地域の方が、この機にどうすればいいかということをお互いに話し合ったりしてほしいと私は提案しました。新しい形、保護者が自分たちの子どもが通っている学校のために、または地域の子どものためにこういうものはどうかと本当に子どもたちのために。ただ、今までの形のPTAを存続させるのは私自身も難しいと実は思っています。

私自身の教訓は東日本大震災なのです。あの災害が起きたときに、ようやく社会が気づいたのは絆です。人と人が地域でつながっていることがどれだけ大事かということがそこ



にあったのですよ。PTAもここで気づくことかなと思っています。実を言うと、午後にPTA活動研究集会があって、私はそこでまた挨拶をするのですが、そのことは4月も話しました。でも、これは社会的現象なのですよ。自治会もそうです。そういう中で人々がつながるといことは、そういう話題が出て、関わって、いろいろ議論することが僕は大事なかなと思っています。先輩がおっしゃられたとおり、私は私でPTA活動というか、その組織というよりも、狙いがここにあって、何のためにみんながいるかということをもう1回みんなで確かめて議論する必要があると思っています。よりよきPTAの活動というか、保護者の活動を進めてまいりたいというのが今の私の考えです。

**○内野市長** それでは、この辺で教育大綱の議論を終わりにさせていただきます。時間も相当過ぎておりますので、後の2つは短くお願いしたいと思います。

協議事項の(2)令和5年度教育行政における重点事業等について簡単によろしく申し上げます。

**○教育部長** それでは、ご説明させていただきたいと思います。1枚目、右下が教育長の絵になっていますが、誰ひとり取り残さない教育を目指します！ということです。

①から⑫までに主な取り組み（見通し）を掲げさせていただいています。右下に約52億円とありますが、現在、昨日から議会が始まって、提案させていただいています。こちらは前年度の予算との比較ですが、18億円ですね。この中には中学校給食に伴う建設工事費約13億円を含んでいますが、今日は市長がいらっしゃいますが、大幅な増額をさせていただいたところでは。

①学校施設整備事業です。学校施設の維持管理に加えまして整備事業を実施してまいります。小中学校のLED化改修工事、柏ヶ谷小学校、中学校校舎外装改修工事など、児童生徒の施設環境の充実に加え、省エネ化を進め、高騰する電気料の削減、また、児童生徒の安全確保に努めてまいります。事業費約7億円です。

②学校給食事業です。こちらは「おいしい笑顔」のために安心して安全な学校給食を提供してまいります。令和6年4月から中学校給食完全実施に向けまして、食の創造館工事をはじめ、様々な準備を現在急ピッチで進めています。また、中学校給食に向けて、教職員への説明会とか、あるいは学校単位での試行給食を進めているところです。完全給食に向けた準備期間として、令和5年9月から一部給食を開始してまいります。事業費約21億円です。

③スクールライフサポート事業（就学援助）です。こちらは経済的な理由でお子さんを小中学校へ就学させるのにお困りの方に、学用品費や給食費など学校生活に必要な費用の一部援助を継続してまいります。約7,800万円です。

④教材費支援の拡充です。小中学校の入学にかかる費用は非常に大きいため、現在、公立、私立を問わず、小中学校の1年生の教材費を公費で負担してまいりまして、今回は物価高騰による保護者への負担を軽減するため、教材費の支援額を引き上げてまいります。小学校1年生1人当たりこれまで9,000円であったものを1万円に、中学校1年生1人当たり1万5,000円を1万7,000円にしてまいります。そのほか、小中学校で使用する彫刻刀とか、中学校で使用しています柔道着も市が負担してまいりまして、各学校に配置しているところです。事業費約4,400万円です。

⑤教育支援体制の充実です。左側、不登校児童生徒等への支援です。不登校児童生徒数は年々増加傾向にあります。個々のニーズに合った学習支援を進めてまいります。事業費として約5,300万円です。右側、特別支援教育充実です。教育的支援が必要な児童生徒に対しまして、個別な指導等を行ってまいります。事業費約1億5,000万円です。

⑥ICT教育の推進です。令和4年度は、全ての小中学生に1人1台端末が配置されております。海老名市のICT教育が大きく一歩踏み出した年となりました。令和5年度は、情報活用能力の育成と学習活動の充実を図ってまいります。また、デジタル教科書の導入、あるいはプログラミング教育の推進などです。事業費約2億8,000万円です。

⑦外国語教育の推進です。充実した英語教育の体制づくりによりまして、児童生徒の、多様性と他者を尊重する豊かな人格形成と、自己実現を後押ししてまいります。小学校10人、中学校3人、合計配置人数13人のALTを継続して配置いたします。事業費約7,300万円です。

⑧架け橋プログラム（幼保小連携）です。幼保小の架け橋プログラムにつきましては、誰ひとり取り残さない教育の根幹の1つとして、多様性に対応する学校の包摂性を高めていくための大きな取組です。地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携して「共に理解し、共に育てる意識」「育てたい子ども像」を共有してまいります。本格的に事業をスタートしてまいります。

⑨交流事業（森林・防災）です。災害協定締結都市での活動を通しまして、森林環境への意識、あるいは災害時に自らの命を守る力を強化してまいります。まず、森林環境啓発事業としまして、長野県の須坂市での体験活動を通じて、水資源や森林の保全について考えていただきます。次に、防災啓発事業としまして、新潟県新発田市での防災キャンプ事業にご参加いただき、災害時に自らの命を守る力を強化してまいります。事業費1,800万円です。

⑩学童保育クラブ事業です。共働き家庭の増加や働き方の多様化に伴いまして、学童保育クラブの利用者は年々増加傾向にあります。令和5年度は2,000名を超えることが予想さ

れていまして、近隣市と比較しても利用率は圧倒的に高くなっております。市内全小学校での利用率は30%に近づく見込みとなっております。学童保育事業者を支援するため、来年度も様々なメニューを整え、運営サポートを行ってまいります。事業費約5億9,000万円です。

⑪ライフ・スタディサポート事業です。家庭環境等々、あるいは経済的な事情によりまして、学習塾などに通うことが困難な中学生に対しまして、学習や生活のサポートを実施し、進学や安心して生徒が過ごせる居場所づくりに取り組んでまいります。現在、中部地区と北部地区で実施しています。この令和5年度からは新たに南部地区で支援を開始いたします。事業費約1,900万円です。

⑫ユース・ぷらっとフォーム事業です。次世代の担い手であります中学生、高校生、あるいは大学生を中心に自分たちがやりたいこと、あるいは住みたいまちの実現に向けた探究活動の場を提供するほか、地域や学校に関わることで、自身がさらに次の世代のメンターとなるための活動を支援してまいります。事業スタートのための費用として約4万円です。

最後は、保護者への負担軽減を一覧で掲載させていただいています。小中学校の入学にかかる教材費補助、あるいは小学校5年生の野外教育活動補助、小中学校生の修学旅行の補助、また、安全面では、これまで入学時に防災頭巾を購入していただいておりますが、小学生全児童分のタタメットというヘルメットを、令和5年度、全学年に行き渡るよう支援します。海老名市の独自のもの、あるいは他市に負けない保護者への経済的負担軽減支援に引き続き取り組んでまいります。

令和5年度保護者負担軽減の合計額としまして2億2,595万1,000円となっております。最下段にあります。海老名市では、ゼロ歳から中学校3年生まで医療費の無償化をいち早く実施してきました。2023年度からになります。今後さらに18歳まで医療費の無償化を拡大してまいります。令和5年秋頃から開始予定です。

駆け足でご説明しましたが、最後に2023年、子どもたちひとりひとりのしあわせのために、家庭・学校・地域・行政の力を結集して、誰ひとり取り残さない教育の推進を全力で進めてまいります。

○内野市長 駆け足になりましたけれども、これについてはもう3月議会で提案されております。全て、100%完璧に市長として教育予算を認めたという形ではないと思います。ですが、少なからず取っかかりをつくるとか、あるいは今後充実していこうという方針だけは持ちましたので、教育委員のご意見等がございましたら、ここで議論すると大変なので、何かありましたら後で事務局に言っていただければと思っています。

1つだけ、今日は若い人たちがいるので、これだけはお願いしたいのです。ユース・ぷらっとフォーム事業につけているのはたかだか4万円ですが、これはスタートする組織をつくる場を1回つくって、図書館とかは民間の指定管理者ですから、そこと協力してそういうものをつくりたい。そこで集まった子どもたちが提案したものについて、いいものについては今後生かして、事業化したいという気持ちがありますので、ぜひともそういった機会に参加していただければと思います。学童の指導者は若い人たちが多いため、そういった面では、市としても学び支援課として、大学生とか、そういう人たちに集まっていただく場を設けながらやりますので、よろしくお願ひしたいなと思います。

皆さんから、ここだけは少し聞きたいというのがありますか。よろしいですか。

予算の関係があるので、私、ここでは「はい」とは言えません。提案していますので、不十分な点はやっていきたいと思っています。

それでは次に、学校施設再整備について簡単によろしくお願ひします。

**○教育総務課長** 学校施設再整備について説明いたします。教育総務課の西海と申します。よろしくお願ひいたします。

まず初めに、市が保有する公共施設のうち大半が高度成長期に建設された建物で、建築から40年以上が経過していることから、施設の老朽化が進行しています。今後、公共施設の多くが大規模改修や更新時期を迎えることから多額の費用が必要となり、公共施設の維持や更新にかかる経費が大きな負担となってまいります。将来的には人口減少と少子高齢化の進行に伴う財政状況や市民ニーズの変化により、公共施設を取り巻く環境も変化していくことから、現在の公共施設をそのまま保有し続けることは困難な状況です。このような状況を踏まえ、将来の公共施設の在り方を検討し、再編や適正化を進めるための基本的な考え方や取組の方向性を定めた海老名市公共施設再編（適正化）計画が平成29年に策定されました。あわせて、公共施設の50%以上を占める小中学校においても、公共施設の個別計画として学校施設再整備計画を平成30年に策定したところです。このたび、大元である公共施設再編（適正化）計画が来年度見直されることから、並行して学校施設再整備計画においても見直しを図ってまいります。本日は、現行の学校施設整備計画について説明し、見直しに向けたご意見をいただきたいと考えています。

現行の計画では「持続可能」な「夢」のある計画とし、学校施設の再整備を行うことで、本市の「持続可能」な行政運営を可能とするとともに、現在及び未来のえびな子どもたちに「夢」を与えることができる計画としています。計画年度は平成31年度から令和40年度までの40年間、対象は小中学校19校、児童生徒数の推移などを踏まえ、おおむね10年ご

とに見直しを図るものとしています。

現行の計画における人口推計からの想定では、2058年（令和40年）には、ピーク時の54%に児童生徒数が減少する見込みで、将来の児童生徒数の減少やそれに伴う必要なクラス数など、地域での推移を踏まえながら学校の再編を図る計画となっています。

学校施設再整備方針（現行）では、児童生徒の減少に伴い、施設一体型小中一貫校や現在の学区にとらわれない、学区をまたいで校舎新築移転や小中一貫校などの整備方針となっています。

上位計画である公共施設再編（適正化）計画の策定から5年が経過し、見直し作業に入っています。改定に当たっては、市民ワークショップをこれまで5回開催するとともに、市民アンケートを取るなど幅広く意見聴取しています。

市民ワークショップでの公共施設に対する意見の中で、学校に関連する意見として、子どもが「のびのび過ごせるスペースが欲しい！」「世代間交流ができるコミュニティが必要」「公共施設の予算をしぼませないと、世代間の公平が保てない」「小学校を地域の拠点にして、コミセンなどの機能も集約していくべき」「空いた施設を有効に活用できるようにしたい」「若者が使いたいと思える施設になるとよい」などがありました。

これらの意見を踏まえ「海老名市公共施設再編（適正化）計画」の見直しに当たり、将来の市民負担を軽減するため、公共施設の総面積を削減するよう努めてまいります。海老名市の公共施設の総面積のうち、約半分は学校が占めている状況です。現計画策定時の人口推計よりも、現在の人口が伸びている状況で、間もなく14万人に達する見込みです。これらの状況を踏まえ、よりよい学習環境整備のため、学校施設再整備計画も随時見直しを図っています。限られた時間でございますが、見直しに当たり、ご意見を頂戴したいと考えています。

説明は以上でございます。

○内野市長 委員から何かございますか。

○酒井委員 公共施設の再編と学校施設の再整備ということなのですが、小学校とか中学校の施設は、大人がよく使う文化会館といった建物と比べると少し見劣りする残念な部分があるので、子どもが使うものですが、子どもが使うものも大人が使うものと同じクオリティをぜひ目指していただきたいなと思います。よろしくお願いします。

○武井委員 15 ページの現行の「学校施設再整備計画」の中で、対象が小学校、中学校とありますが、これはもう少し検討段階ということで、幅を広げて、幼稚園とか、コミュニティセンターとか、いろいろな複合施設が入った学校もいいかと思いますので、それも検討しこの下に1つに入れてほしいと思います。

○内野市長 皆さんから何かありますか。よろしいですか。

私が進めている計画なので私から1つだけ。つい最近、神奈川県で海老名高等学校の改修工事をしていますよね。学校は内装の工事をする、プレハブを造らないといけないのですよ。そこが大きな問題で、例えばこういう話を学校や教育委員会にしているのです。小学校は3階建てで、時期を決めてワンフロアずつやりたいから、そのワンフロアはできれば体育館を使ってほしいと言っているのですよ。体育館を4つぐらいに分けて、4クラスを体育館で行えばその間、体育はできないけれども、ワンフロアがすぐできるのですね。プレハブがとても高いのですよ。柏ヶ谷小学校を新しくするのに約2億3,000万円かかりました。2億3,000万円というのは、2年数か月使って2億3,000万円かかっている。学校の建設に10何億円かけたので、全てで22億円ぐらいかかった、今やると30億円ぐらい突破してしまいます。教育現場を保障するというのにはあるのですが、学校の先生方や教育委員会ではいろいろ工夫をお願いしたいです。

工期が、学校の長期休みでは短いと思います。その工期でやるとなるとすごく経費がかかってしまう。音が出ないような工事をして小学校なら児童が帰った後に音が出る仕事をやるとか、今後はそういった工夫もしないと、順番にやると相当な年月がかかります。私ども冷暖房、空調とトイレの改修を2年間で全部行いました。各市では今それを始めようとしています。トイレの洋式化はもうとっくに終わっているのですね。もう10年以上たっているから、それを直さないといけない時期、いわゆる更新の時期になっています。今後の学校施設の改善は、工事の工夫、学校の姿勢、それに対してどうやったらできるかという検討もお願いしたいというのが市長としての思いであります。

それでは、以上3つの案件につきましては終わりました。そちらにマイクを譲りましょう。

○専任参事 皆さん、ありがとうございます。それでは、これで本日の総合教育会議協議事項は終了となります。ありがとうございます。

この後、次第4、児童による発表に移りたいと思います。準備等もございますので、15分程度、休憩を取りたいと思います。再開は11時30分からお願いいたします。

それでは、休憩といたします。

( 休 憩 )

○専任参事 それでは、改めまして、次第4の児童による発表に移りたいと思います。

中新田小学校の児童の皆さん、発表をお願いいたします。(拍手)

○児童 皆さん、おはようございます。これから中新田小学校の学校紹介をします。本日は、このような場で発表できることをうれしく思います。(自己紹介)頑張って発表しますので、

ぜひ聞いてください。(拍手) それでは、よろしく申し上げます。

さて、皆さんは、海老名市立中新田小学校と聞いて、どんなことをイメージしますか。名前のとおり、田んぼをイメージしましたか。これから、そんな中新田小学校の歴史や周辺施設や環境、実際にどのような取組をしたりしているのかを皆さんに知っていただきたいと思います。発表内容をご覧のとおりです。申し遅れましたが、こちらが中新田小学校のマスコットキャラクター「中っち」です。これからは、この中っちと私たちが発表していきます。

それではまず、小学校を地図で見ていきましょう。

○児童 だんだんと中新田小学校に近づいていきます。

○児童 中新田小学校は海老名市の西側に位置しており、中新田、今里、さつき町、河原口が学区になっています。中新田小学校の周りには住宅街が広がりつつも、美しい田園風景も見ることができます。そんな中新田には、皆さんもよく知る施設が多く点在しています。

○児童 1つは海老名インターチェンジです。海老名インターチェンジを利用することで、東名高速道路に乗って東京や名古屋方面に行くことができたり、さらに、圏央道も開通していることから、日本各地に行きやすくなったりなど、交通の便がとてもいいです。ちなみに、中新田小学校から渋谷まで海老名インターチェンジを利用すれば、40分で着きます。

○児童 2つ目は厚木駅です。新宿から小田原までをつなぐ小田急線や茅ヶ崎から橋本までと神奈川を縦断するJR相模線が通っています。私たち中新田小学校の多くの人が利用する駅です。車でも、電車でも、交通の便がとてもよい地域です。

○児童 3つ目は海老名運動公園です。市内の多くの人が利用したことがあるのではないのでしょうか。放課後、友達と遊んだり、夏になると海老名運動公園のプールを利用したり、市内の6年生が集まって行う連合運動会を陸上競技場で開催したりなど、頻繁に利用しています。

○児童 4つ目は食の創造館です。私たちが毎日おいしく頂いている給食は、ここ食の創造館で作られています。このように皆さんになじみのある施設が中新田には多くあります。

○児童 中新田小学校の屋上から見える風景です。西側には初日の出を見に行かれる方が多い丹沢山脈や日本一高い山、富士山が見えます。

次に北側です。住宅が広がっており、マンションが多く見えます。そして厚木駅があります。

○児童 続いて、東側は田園風景が広がっています。季節によって見え方が変わるのがとてもいいところです。

最後に南側です。中新田小学校の自慢の1つである広い校庭があります。日当たりがよく、

外で遊ぶのがとっても気持ちいいです。これが実際の中新田小学校の校庭です。緑に囲まれて、とても開放的な空間です。遊具は少ないけれども、サッカーコートが3つあります。この校庭は、土日になると、地域のスポーツチームが利用したり、以前はドクターヘリの着陸場所に利用されたりと、多くの方が利用しています。ほかにも花火の打ち上げ会場や夏祭りの臨時駐車場など広い校庭を生かした使われた方がされています。

○児童 ここまで中新田小学校の特徴を紹介してきました。

次に、中新田小学校の歴史を見ていきたいと思います。

最初に見ていくのは中新田小学校の始まりです。

○児童 昭和20年、30年代には、まだ海老名には4つの小学校しかありませんでした。中新田は有鹿小学校区でしたが、学区が広く、通学の大変さを考慮したことから中新田分校がありました。しかし、昭和40年代に入ると海老名市の人口がどんどん増えていき、分校では収まり切らなくなりました。そこで、多くの人を受け入れられるように、昭和47年に中新田小学校が建てられました。

○児童 続いて、昭和54年を見ていきましょう。校庭の右側に注目してください。この頃の写真を見ると、私たちの学校にはプールがありました。このほかにも、緑のプレハブ小屋や校庭が少し狭いなど、今の私たちの校庭と比べると少し違います。

○児童 次に、昭和56年です。この写真は中新田小学校の10周年の写真です。先ほどの写真と比べると、校庭が広がっていたり、校舎が増築されていたりして、今の私たちの学校の状態に近づいてきました。また、この頃、海老名市の人口が8万人を超え、10年前の人口から3万人も増えています。中新田小学校の在校人数も1200人を超えるなど増えていきました。

○児童 また、さらに10年後の中新田小学校を見てください。皆さん、既にお気づきだと思います。10年の間にプールの位置が左上の校舎横に移動しています。校舎回りの木もだんだんと育ち始め、緑が多くなってきました。

○児童 そして、どんどん時を経て、おとし、令和3年に中新田小学校50周年を迎えました。全員で仲よく中っちを写すことができました。また、プールも取り壊されて、今はふかふかの芝生になっています。

○児童 これは中新田小学校の校章です。このような思いを胸に、私たちは日々伸び伸びと楽しく生活ができています。

続いては、私たちが新田小学校の取組について紹介します。令和4年度の実際の取組を基に発表していきます。



○児童 中新田小学校の学校教育目標は『未来を拓く、心豊かな、たくましい中小の子』～人と人との絆のなかで、共に学び合う9年間～」です。今年442名の仲間たちとスタートしました。

○児童② 今年64名の元気な1年生が仲間になりました。まだ学校生活に慣れていない1年生に対して、私たち児童会が中心となって1年生と仲良くなろう会を開催しました。2年生から6年生までが学年ごとに、どうやったら1年生と仲良くなれるか、一生懸命考えました。1年生も、それから会を考えた私たちも、遊びを通して仲よくなることができました。

○児童 6月に入ると、毎年中新田小学校では、地域の方々と協力して、学校横にある田んぼで稲作活動が始まります。稲作活動は5年生が行います。去年、私たちも体験しました。稲作活動は初めてなので、農家の山田さんに教えていただきながらスタートしました。機械に頼らず、手作業で1つ1つ苗を植えていきます。田植えでは横1列に並んだ状態で同じ方向に進みながら植える横縄植えを体験しました。1列が終わったことを確認しながら進むので、みんなで声を合わせながら頑張ります。ずれないように慎重にやるのが難しかったです。

○児童 これは4年生がかかし作りをしている写真です。

さて、皆さんは、中新田かかしまつりを見に行かれたことはありますか。中新田かかしまつりには多くのすばらしい作品が展覧されており、私たち中新田小学校で作った作品も展覧されています。かかし作りでは、各家庭で使わなくなったものをなるべく再利用して、協力して作製していきます。

○児童 そして、完成したのが9月のかかし祭りに出展されます。今年一度打ち切りになる予定でしたが、地域の方のおかげで何とか開催することになり、うれしかったです。

○児童 10月になると運動会があります。私たちの学校では勝ち負けにこだわらないのが特徴です。今年運動会の目当ては「自分のパワーをふりしぼり、楽しく、きずなを深める運動会にしよう！」でした。運動会を通して、学年の枠を超えて応援し合ったり、励まし合ったりすることで、より絆を深めることができました。実際の運動会様子を少しご覧ください。

○児童 運動会が終わると、すぐに校内音楽発表会が待っています。今年3年ぶりの開催となり、みんなどきどき、わくわくな気持ちで臨みました。音楽を通して心を1つにすることで、すてきなメロディーを奏でました。

○児童 11月には、さらに待ちに待った稲刈りがあります。ここでも機械に頼らず、1束1束、丁寧に鎌を使って収穫していきます。今年480キログラムも収穫できて、豊作でし

た。

○児童 そして、12月には、多くの地域の方々を招いた中小もちっ子ひろ場が開かれます。地域の方々の協力を得て、5年生が収穫した餅米を使って餅つき大会をします。きねは重たいけれど、楽しく餅つき体験をすることができました。きなこ味、あんこ味の2種類があり、とてもおいしかったです。

○児童 もちっ子ひろ場に併せて、私たち運営委員会が主催のなかつ子ギネス大会が開催されました。3年生から6年生がチャレンジ種目を考え、チームで記録を出し合っています。どの学年の種目も面白く、協力しながらやったので、大変盛り上がりました。また、みんな大好きえび〜にゃも来てくれました。

○児童 中新田小学校の校庭にはお芋畑があります。1年生と2年生は5月に協力して苗を植え、11月に収穫しました。収穫したお芋は約1か月間熟成させます。12月、1年生と2年生で焼き芋パーティーを行いました。自分たちで育てたお芋をみんなで仲よく分けて食べると、より一層おいしく感じるすることができます。

○児童 2023年1月、新しい年を迎え、新たな気持ちで筆を取り、力強く文字を書きました。どの学年もそれぞれのよさがあり、放課後には保護者にも見てもらうことができました。

○児童 そして、3学期になってから、全校児童で昼休みを使って縄跳びタイムを実施しています。1月はクラスごとに大縄跳びをして、楽しく日々の記録更新を目指して、体を動かしています。2月に入ってから短縄に切り替えて、先生方がつくってくれた縄跳びダンスを踊っています。

○児童 このような1年間の取組の背景には、毎回、私たち児童中心で話し合う代表委員会が開かれています。ここでは議題に沿って全校児童がどのようにしたら学校生活を楽しく過ごすことができるのか、真剣に話し合っています。

○児童 また、学期ごとにクラスで具体的な生活目標を考えています。これをする事で、1人1人の意識が高まり、充実した学校生活を送ることができます。クラスごとに色があって、とてもすてきです。このように私たち中新田小学校は、人と人とのつながりを大切にしながら楽しく取り組んできました。

○児童 そして最後に、6年間過ごした感想をお話します。

私が6年間過ごしていて、いつも感じていることは、先生方が本当に温かいということです。優しく、時に厳しく、私たちを見守ってくれる先生方は私の憧れです。中小の数々の行事を通して先生たちと深く関わり、このよさに気づきました。このような先生方と出会える中小の生徒で、本当によかったと思っています。

○児童 私は生徒主体となつて行ふ行事の数々がやりがいと面白さを感じ、とても楽しかったです。この貴重な経験を中学校生活にも生かしていきたいと思っています。

○児童 中新田小学校の一番の特徴である広い校庭では、思い切り遊ぶことができ、友達と仲よく過ごせた6年間でした。また、地域の方々に手伝ってもらいながら、自分たちで育てた餅米を収穫し、もちっ子ひろ場では、その収穫した餅米を使って、きねと臼で餅つきをするというような中新田小学校でしか体験できない貴重な経験をさせていただくことができました。

○児童 皆さん、私たちの発表はいかがでしたか。私たち3人、中新田小学校で6年間過ごすことができ、とてもよかったと思っています。

○児童 このたびは、このような貴重な場を設けてくださり、ありがとうございました。これで発表を終わります。(拍手)

○専任参事 ありがとうございました。3人の皆さん、とても堂々として、大変よかったと思います。

それでは、こちらの発表を踏まえまして、教育委員、市長、教育長、何かご意見がございましたらお願いいたします。

○内野市長 中新田小学校が分校のころに、私、有鹿小学校出身なのですね。1年から4年までは分校で、5年生になると中新田分校が1クラス有鹿小学校に来るわけです。そのとき、圧倒的に有鹿小学校が多いので、みんなは、おっ、分校、分校と言って、ほとんどいじめの状況。そこで2クラスが3クラスになるのだよね。私の頃は地域対抗リレーという運動会を行いました。中新田は速いのですよね。有鹿小学校から歩く距離が一番長いのだよね。山王原からこちらだから。山王原といたら、社家と境なのですが、そこから来ている人が速かったです。分校、分校と言うのも、1か月ぐらいでした。あとはクラスが3クラスになって多くなるから、がちがちしていました。何しろ1年から4年まで一緒にずっと1クラスだから、有鹿小学校に比べて中新田分校は団結力がありました。その地域の人たちが農地をやって、平井委員がそうですが、何人かでいらっしやって、餅米を作ろうとか、いろいろなことをやってきた事実がある。やはりそういったところだと思うのです。

1つだけ聞きたいのですが、プールをなくしたのは私と教育長で、相当市民から批判を食らったのですが、皆さんは運動公園のプールに行つてどうですか。どちらがよかったですか。

○児童 私は泳げないので…。

○内野市長 どちらでも良いのですね。屋内のプールになつても全く関係ないの。では、それでよかった。何しろあのとき、プールをなくしたと相当批判を浴びたのですよ。今はプー

ルがなくなるのは当然で、全国的に海老名市は注目されていて、なぜプールを終わりにしたかと言われていて、全国から視察に来ているぐらいです。やめることはすごく難しいのですが、屋内プールでできたということでよかったなと思っています。

何しろ分校だったのが、グラウンドは有鹿よりも広いし、校舎もすごく広いし、こう見ると新しいのがいいなと思いますね。

平井委員は分校だ。俺より3つか4つ、もっと上かもしれない。

○平井委員 市長は分校はと言いましたが、本当に分校4年間は楽しかったです。

木造で1クラスですが、皆さんもおっしゃいましたが、本当に温かみのある、いい先生ばかりで、私の中ではとてもいい思い出です。それから中新田小学校に子どもたちが通うようになって、家から毎日学校が見えます。4階の廊下を歩く皆さんの姿も見えます。ですから、毎日学校の様子が分かる。そして、隣の道路を子どもたちが登下校します。私の中ではずっと切っても切れない中新田小学校なのです。でも、いい思い出ばかりです。

みんな元気なのがとてもいいです。帰りに歌を歌って帰ってきてくれるのが何よりうれしいです。「お尻を出した子、一等賞」なんて歌って帰ってくると、心がほわっとするのですね。私は学校を辞めているのですが、心の中からまだまだ学校が離れないのです。いつまでも私の心の中に、皆さん、ずっと学校を残してください。今日はありがとうございました。

(拍手)

○武井委員 皆さん、発表、お疲れさまでした。緊張しないで、すごく上手に話せていて、聞きやすかったです。僕は中新田小学校のイメージと言われると、例えばドクターヘリが止まるとか、サッカーチームがよく練習しているとか、近くに衣料品店があるとかです。僕の知り合いの先輩が中新田小学校からドクターヘリで運ばれたときに、うちの息子がたまたまそこでサッカークラブで練習をされていて、一時避難をしたとかいうイメージしかなかったのですが、上空からの写真がとても良いですね。分かりやすく、広域的なところにあるような施設が取り込まれていることは少し勉強になりました。

もう1つ僕が刺激になったのは、皆さんが作った稲作が480キロ取れたということを知っていて、僕が昨年お米を作ったときは、同じ面積で多分360キロぐらいしか取れていないと思っていて、中新田小学校の皆さん負けないように、もう少しお米作りを頑張りたいと思います。

今日は大変いいお話をありがとうございました。(拍手)

○濱田委員 私からも、今日は発表、本当にありがとうございました。さっきいろいろ話が出てきた中で、少しつらかったというのもあると思うのですよ。学校生活の中でも、特にコ

コロナの関係ではいろいろ皆さん我慢をしてくられたのではないかと思います。これから中学校へ行って、また環境も変わるでしょうから、体調を十分整えて、新学期を迎える。まだこれから卒業式とかあるものね。3月に向かって暖かくなってきますから、頑張っって中学校生活を迎えてください。

今日はどうもありがとうございました。(拍手)

○酒井委員 発表、ありがとうございました。6年間通って楽しかったと振り返ることができるといのが何よりもうれしい一言でした。お餅を作ったりとか、焼き芋を作ったりとかというのは、ほかの学校ではやっていないことなので、そういう思い出をみんなで作ってくれて、学校の先生も一緒に取り組んでくれて、地域の方にも見守られて、皆さんのことを本当に大切に思っている人が身の周りにたくさんいることをしっかり受け止めて、中学校でも頑張ってください。

ありがとうございました。(拍手)

○伊藤教育長 ありがとうね。聞いていて、校長先生と先生たちがみんなの発表を一番喜んだのではないかなと思って聞いていました。

最後に1つだけ、急な質問で申し訳ないですが、中新田小学校のあなたのお気に入りの場所だけ教えてください。

○児童 私は廊下に非常階段に通じる扉があるんですけども、その隙間で体が収まる場所です。

○児童 空調が入った体育館です。

○伊藤教育長 ありがとうございます。中学へ行っても頑張ってくださいね。(拍手)

○内野市長 卒業式は空調が入ったところ。校長先生、寒い日はちゃんと入れてね。

○中新田小学校長 おかげさまで、快適に使わせていただいています。

○専任参事 ありがとうございました。

それでは、ご来場の皆様、発表して下さった中新田小学校の児童の皆さん、そして指導してくれた先生に、改めて大きな拍手をお願いいたします。(拍手)

以上をもちまして、今年度、令和4年度第3回海老名市総合教育会議全てを終了といたします。

なお、来年度は市内の高等学校の生徒さんにもご参加をいただいて発表してもらうことを予定しております。また皆様、改めまして、次回以降も傍聴にご参加いただければ幸いです。

それでは、長時間にわたりましてありがとうございました。どうぞ皆様、お忘れ物なく、

気をつけてお帰りください。

ありがとうございました。